

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は第三者評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>医療法人社団山中医院共通の理念として < 地域の医療と介護に奉仕する > を掲げている。具体的にはこの文言を額に入れご家族や地域の人々および職員がいつも出入りする玄関、ホールなどに掲げている</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念に沿って右記のように介護の方針を決め理念とおなじように掲示している。また理念にそった実践をフロア単位の会議や全体会議で啓蒙、指導を心がけている</p>	<p>1 個人の尊厳を守り生きてこられた軌跡を大切にします 2 地域に密着した生活を支援します 3 個人情報を守り漏らしません 4 医療・保健など関連分野と連携をとりよい介護をめざします 5 介護技術の研鑽に励みます</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>入居者の家族、地域の友人その他一般の市民をいつでも受け入れ、また運営推進会議のメンバー、他施設の介護に従事している人達と当ホームでの交流を密にして現状をみていただくことで理解を深めていただくよう努力している</p>	
(<input type="checkbox"/> 部分は第三者評価との共通評価項目です)			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>曜日を定め毎週ホールを解放して地域の方と入居者がお茶を飲みながら交流する時間を設定している。また管理者や職員は入居者と散歩や買い物に出かけたとき必ず挨拶をしている</p>	<p>計画している、<こども図書館>の整備をすすめ地域の幼稚園や小学校の休みまでに利用を呼びかけたい</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>近隣の保育園、幼稚園、小学校の園児や児童の訪問をうけ楽しい時間を過ごしたり、自治会の行事に参加したりと活発な交流をおこなっている</p>	<p>こども図書館の整備を急いで地域の幼稚園児から高校生まで幅広く交流の輪を広げたい</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	毎週ホールを解放して地域の人との交流には在宅の高齢者の参加も多く、これが予防介護支援につながると考えている		災害時の避難場所として水や食料の備蓄をする
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回開設 年未満のはじめての評価で、具体的な改善項目は出ていないが評価をうける準備が環境整備に役だったことは見逃せない		評価が出てからの検討課題
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	常に左記のように心掛けている		4月の会議で入居者から要望のあった酒場(バー)の開店
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターに機会があるごとに立ち寄り情報の交換を行うなどしてサービスの向上に努めている		包括支援センターの要望をふまえ地域の介護予防にも取り組む予定(平成20年中)
10	管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員の内実践者研修了者(7名)、介護福祉士(6名)、社会福祉主事(1名)と制度についてすでに学んでいる者が多い。当ホームは入居契約時にご本人から委任された代理人と契約を結んでいるため今のところその必要性は発生していないと思われる		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内の虐待は職員の心身のストレスが原因と思われる。超過勤務や夜勤の回数などに気をつけ管理者はさりげなくスーパーバイジングを行うなど細心の注意をはらっている。また入居以前の親族からの経済的虐待があったのでは？と思えるケースがあったが入居により解消された		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書にもとづいて十分な説明を行い、納得の上入居いただいているが、日々運営するなかで補足説明が必要とおもわれる案件、事案が生じた場合その都度補足説明を文書化して周知徹底を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議では活発に意見を出していただき、リーダー会議などを通して現場に反映している</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>左記の通り実践している。職員の異動については担当職員の変更時のみ行っている</p>		
15	<p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情を受ける担当者および第三者の連絡先を明記した一覧表を玄関付近に掲示している</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>リーダー会議、全体会議、ユニット会議を定例で毎月 回、また必要に応じて行っている。必要なときにこまめに意見交換をしている。また全体申し送り簿には職員全員が書き込み自由で、意見や提案をくみ上げる方策をとっている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>法定配置人員をはるかに越える職員を配置して冒険(徘徊)などに対処できる体制をとっている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>左記の通り実践している。ユニット間の移動がダメージにならないよう間取りにも工夫をしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開業前には全員に計5回の新人研修を行ったほか兵庫県の認知症対応者の研修のプログラムに沿って受講させている(受講日は出勤扱い・交通費は事業者負担) 感染症流行期前には医療部と合同で研修をおこなっている		これからも外部、内部を問わず研修を行い職員全体としてレベルアップしていきたい
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネージャーの勉強会の会場に当ホームを使ってもらい、職員も参加させてもらう、といった方法でネットワークづくりに取り組んでいる		近隣の同業者との交流を積極的に行っていきたい
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	残業を最小限にとどめる。勤務中に業務以外の会話を家族との会話のように話せる雰囲気創り。本人や家族の病気の時に遠慮なく休める勤務態勢の工夫などに取り組んでいる。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	たえず心がけて声かけを行っている。また各種試験などをすすんで受けるよう奨励している		<なんとなく研修>ではなく<Aさんの誤嚥を改善したい>といった明確な目的をもって研修をうける意識の徹底をはかる
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学時に本人を同行してもらう。面接時にたっぷり時間をとるなどしてはいるが認知症の程度によっては「模範解答」しか帰ってこないこともある。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学にはいつでも、何度でも来ていただいている。見学時、面接時に時には涙を流して話されることも多いが、たっぷり時間を取って受け止めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応には管理者、ケアマネージャーと二人で面接するなど限られた時間で最大限の情報収集につとめている		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居当初は家族の訪問も多くその機会に状況把握に努める。家族がそばにいるときの言いやすい雰囲気をとらえて希望を引き出すなどの試みをおこなっている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事(料理・洗濯物干し・掃除)に参加をしてもらう、畑で草引きをしてもらうなど<昔取った杵柄>を發揮してもらっている。職員が「まなぶ」ことも多く「孫に教えてあげた」といった満足感を味わってもらえていると感じている		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	左記のとうり実践している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	左記のとおり実践している		
30	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	曜日を定め毎週ホールを解放して地域の方と入居者がお茶を飲みながら交流する時間を設定している。この時の友人の来訪はより楽しい時間である。また、なじみのスーパー、近隣を散策しているときなどにも知人から声をかけられ楽しそうな様子がよくある		今後馴染みの人や場所との関わりをもっと増やしたいと考えている
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	<いじめ>のような事例が2件あった。家族と相談の上ユニットを変更したがいずれも好結果をもたらした。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	左記のような事例はない		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向を正確に伝えられる入居者は少なくご家族の意向、本人の行動や様子を観察して検討している		これまでの生活の経験を取り入れ健康状態の維持向上と精神状態の安定が図れるように支援する
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご近所の友人やご兄弟などの面会時に同席させていただき子供さんには判らない部分の生活歴を聞き出している		センター方式の勉強会を積極的に行い入居までの生活歴や趣味を把握して日々の生活に取り入れたい
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	現在できること、少しの介助、声かけでできそうなことを勧めADLの把握と低下予防を心掛けて、心身の変化に柔軟に対応している		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人からの聞き取りが困難な場合は担当者会議での問題点の洗い出しの他「できること」「できそうなこと」に重点をおき、ご家族の意向もとりいれてプランをたてている		「できそうなこと」を目標として少しずつ「できること」にもっていけるようなプランづくりをしたい
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間にとらわれず、プランが心身の変化とかけ離れた場合担当者会議で検討し変更するなど柔軟に対応している、		プラン立案後ご家族に説明し納得されてはいるが担当者会議にも参加していただきたいと考えている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の心身状態の把握とその対応が判るケースと、状態が安定していて自立されている方の情報が得られないケースとがある		状態が安定していて自立されている方への気づきの記録も心掛けたい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	運営母体が医療法人であり渡り廊下でつながっている診療所への受診や、院長や看護師が頻りに様子を見に来ることから本人や家族には安心感をもっていただいていると自負している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	各方面のボランティアの定期的な訪問や園児、児童の季節ごとの訪問など入居者の楽しみとして定着している		今後近隣の中学校や高等学校へもアプローチして行く予定
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホームの規定から入居後には左記のような事例はない		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	オープンから現在まで左記のような事例はない		ケースが発生すれば対応する
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営母体が医療法人で隣接している診療所から毎日医師や看護師の訪問があり、またいつでも受診が可能		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	母体の医療法人に精神科の診療日があり受診や相談を受けている		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週3回入居者全員看護師の訪問看護を受けている。ホームと看護師詰め所は内線で繋がっている		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	法人内の医療との連携は当然ながら地域の公立宍粟病院の地域連携室とも連携をとっている		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人内の医療との連携および方針の共有は通常時の毎月の連携会議などを経てできている(まだ具体的な事例はない)		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	左記のとおり実践している		これからの終末期の対応については本人の意向を聞き取りたいとその方策を検討中
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	左記のとおり実践している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	左記のとおり実践している	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	左記のとおり実践している	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	左記のとおり実践している	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ボランティアでホームに来てもらっている理美容と個人で行きつけの理美容室を自由に選択してもらっている	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	左記のように実践している。朝食時パンの嫌いな人、雑炊の嫌いな人には個々に対応している	
55	本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	喫煙者は該当なし。お酒については希望を聞いて数回だが対応した	<バーやまなか> を開設準備中

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	左記のとおり実践している。個人差はあるものの夜間4～5回声かけをする場合もある		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週5日の入浴日を設定。基本的に希望時間を聞いているが二人介助が必要な入居者についてはその限りではない		入浴日を週3回にしたい
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	左記のとおり実践している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	左記の通り実践している		介護度1～5までと入居者のADLに開きがあり工夫の余地を残している
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者のお小遣いを預り金として保管して買い物、理美容代、外出時の飲食代などに充てるように支援している		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	歩行の困難な入居者が半数以上を占めているのでリビングや居室でのんびりしていたい人が多いが、散歩や畑仕事の好きな人には職員が声かけをして戸外へ出ている。職員の買い物時に同行することもある		頻回に外出できるよう介護を見直す余地がある
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月一回以上は車に分乗してユニット単位で花見などに出かけている。近くの喫茶店へ急に出かけたりもする		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状は書いてもらった。電話は希望があればもちろんのこと家族の話題が出て淋しそうな時などは職員が促すこともある		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問者が帰られるときには「また来てあげてください」とか「お待ちしております」と声かけをして支援している		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	医師の指示で患部の病原菌を他所にうつす危険防止のため特定の人に1度ミトンをはめたこと以外に身体拘束はない		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間および職員の休憩時間などでみまもりが1人になりなかつ徘徊の危険があるとき以外は施錠していない		ドアの位置変更を考慮中
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個室での転倒の危険のある場合のみモニターを設置し左記の通り実践している		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	細心の注意をはらって左記の通り実践している		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	左記のとおり実践している。(それぞれのマニュアル作製済み)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	正職員全員、パート職員の一部で20年6月から定期的に行う予定(第1回6月12日・初回分は三回に分けて全員に行う)		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼間訓練 6月～ 夜間訓練 8月		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	左記のとおり実践している		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の医師や看護師の巡回時に報告し指示を仰いでいる		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日勤リーダーと夜勤者が連携して責任を持ち左記の通り実践している		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	左記のとおり実践している(緩下剤の投与を含む)		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後はできる人は自己管理、できない人は誘導するなどして左記のとおり実践している毎。朝夕の義歯の着脱および夜間の管理は夜勤者の業務に組み込んでいる		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量をこまめにチェックし、また管理栄養士の指導を仰いだりして左記の通り実践している		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	運営母体の診療所の指導をうけ、連携して左記のとおり実践している。1月に玄関横に手洗い器を設置済み		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	生鮮食品などの毎日の買い出しなど左記のとおり実践している		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	バリアフリー、門から玄関までのゆとりの工夫など左記のとおり実践している		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いつも花をたやさず、左記の通り実践している		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	左記の通り配慮している		1、2階のユニット間の自由な行き来を試みたい。(現在は職員が付き添っている)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	左記の通り入居時に勤めているが、建物が新しいためそれに合わせて新品を持ち込まれることが多い。カーテンは防災のもの設置を指導され、新しく当ホームから支給している		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	左記の通り実践している。夏期 27～28 冬期 24～25		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	設計段階からバリアフリー・ユニバーサルデザインの専門家(管理者)ともども検討をかさね、オープン後もミニホームを行い左記の通り実践している		ユニット間(1・2F)の間仕切りをなくすことを検討中。実現すればゆるやかな階段の利用で足腰の筋力アップがおのずと図れる
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員の担当入居者を決め左記の通り実践している(1職員1～2名)		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周には花を植え、畑には季節の野菜を植える等して、草引きや収穫を愉しんでいる		ベランダを利用してアニマルセラピーが実施したいのだが……